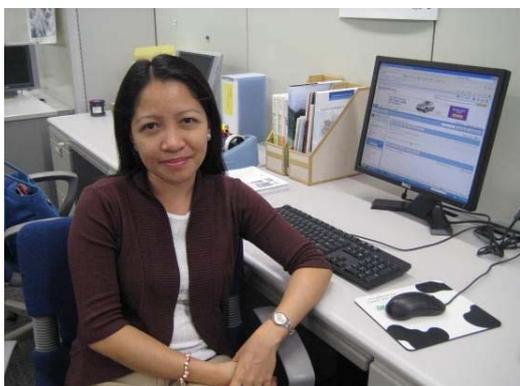


ジョセフィナ・タン・ポーシル (フィリピン)



私はフィリピンのケソン市より参りました、ジョセフィナ・タン・ポーシルと申します。現在 ADRC の客員研究員として 2009 年 8 月から 12 月まで神戸に滞在しています。フィリピン国家防災会議 (NDCC) ・民間防衛室 (OCD) で採用される前の 4 年間は小学校で英語、数学、理科を教えていました。その後、民間防衛オフィサーとして 9 年間 OCD で勤務しており、現在は OCD の企画課に所属しています。OCD は、

NDCC およびその委員会の事務局として位置づけられています。

私は現在、特別支出官として『READY プロジェクト (効果的なコミュニティ防災のためのハザードマッピングとアセスメント)』に携わっています。このプロジェクトは国連開発計画 (UNDP) とオーストラリア国際開発庁 (AusAID) からの資金提供を受け、NDCC、科学技術省、環境・天然資源省が協力して、フィリピン国内の 27 の災害に弱い州を対象に実施されています。また、NDCC と教育省が共同で実施している『防災の教育及び開発へ主流化 (フェーズ II)』プロジェクトでは、専門作業部会のメンバー及び事務局員を務めています。このプロジェクトは、欧州委員会人道援助局 (ECHO) の資金支援を受け、アジア災害予防センター (ADPC) や UNDP より協力を得て実施されています。

その他の業務として、OCD の指令センターで当直官として月に 2-3 回勤務をしています。指令センターには 24 時間 365 日職員が配置され、災害の監視、非常時の応急活動の調整、災害レポートの準備・更新、高官への報告などを行っています。また、OCD 企画課でワークショップやセミナーの開催、地方機関・NGO・国際機関との防災プロジェクトでの協力、関連機関の監督、政府機関/民間機関/その他関連機関との情報共有や報告を行っています。

日本は先進工業国であり、人々は誠実で、規律正しいという印象をもっています。フィリピンのような開発途上国にとっては見習うべき人々や、効率的なシステムを備えたモデル国といえます。日本の成功への道は、どの国もが追い求めたいような偉業であると私は思います。私はいつも日本の急速な発展や効果的かつ厳格な規制・法律などの管理システムの実施、日本の優良事例や経験の『秘密』についていつも知りたいたと思っていました。日本という国や、その指導者たちがいかに国や民衆を開発や発展へ向けて導くことができたのか、この機会を通じて学びたいと思います。

日本の防災システムだけではなく、私は特に気候変動緩和および適応に関する政策に興味をもっています。現在私の母国であるフィリピンは、気候変動の影響を大きく受けているため、日本の教訓から学ぶことはフィリピンにとって大いに役立つでしょう。このような理由から、客員研究員の一員として選ばれたことを大変光栄に思っており、与えていただいたこの貴重な機会を十分に活用したいと思います。